

1 こんな学級づくり

みんなちがってみんないい（学級通信『Fry High』）

わたしたちは、顔・体・名前・誕生日などいろんなことがちがって当たり前です。でも、違って当たり前なのに、時々違うことをわかってやれない時があります。自分のことだけしか考えない時です。

自分を大切にする、友達を大切にするを学ぶことは、今後の学校生活や人生を楽しく過ごすことにつながります。みんなちがって当たり前。世界にたった一人しかいない自分を大好きになる、友達を大好きになる。夢や目標に向かって一步一步努力する。そんな学級を今後もつくっていきたいと思います。

2 学力向上のために 「自分でできる力を育てる」

- ・ 家庭と学校が連携してこそ、子どもの勉強を支えていける。

★ 家庭教育と切り離された「学力向上」はあり得ません

伸びる子の条件は、4つあるといわれています。

- ① 「ていねい」に物事に取り組む子
- ② 「まじめ」な子
- ③ しりごみしないで「挑戦」していく子
- ④ 一度やり始めたことは「最後までやる子」

②の「まじめ」な子を育てるためには、家庭学習の習慣をつけることが大切です。

≪家庭学習の習慣を身につけるためには≫ この3つは継続してやらせましょう。

- ① 机で学習する習慣をつけよう(机は親の近くのテーブルでもOK)
- ② とにかく座らせる
- ③ 毎日やらせる

3 1学期の学級経営の反省

(学習面)

- ・ 基本的な、正しい姿勢で学習することができないことが多く、離席や私語もまだまだ多いです。そのため、集中力が長く続かない時があります。
- ・ 1学期に学習する漢字(90字、読替漢字漢字含む)を8割読み書きできることが目標でした。字を丁寧に書く子が多くなり、漢字を覚えようと一生懸命取り組んでいます。
- ・ 宅習の漢字をみんな丁寧に書いてくるので、気持ちよく丸を付けることができます。その結果、漢字の書きの定着度も高まってきました。今後も繰り返し練習させます。もう少し提出率が上がるといいなと思っています。与えられた課題を期限内に提出する力は、将来、就職したときに必要な力になります。ご家庭でも声かけと見届けをお願いします。実は、高校入試では学力テストだけでなく、内申点が大きく合否を左右し、その内申点は、中学校では提出物や課題を期限内に出せるかどうか点数に大きく関係しているそうです。
- ・ 音読や読書に取り組んでほしいです。音読や読書は学力向上の近道、たくさんの言葉や言い回しを知ることで、コミュニケーション能力の向上にもつながります。また、読書をすることで、忍耐力もつきます。今後のステップアップとして、短い物語を読んで、その内容(あらすじを)を簡単に伝える練習をご家庭でも取り組んでみてください。
- ・ 算数が難しくなっています。6年生の算数は、中学校にそのままつながる大事な単元が多いので、しっかりと復習してほしいです。
- ・ 学習したことをその日の宅習で復習する、テストの前日はテスト勉強を宅習帳の宅習ページにするという習慣を身に付けると、学力も向上すると思います。
6年生の宅習時間は「学年×10+20=80分」です！
- ・ 学校は間違っていないところ。もっと自信をもって発表してほしい。

(生活面)

- ・ さすが最上級生。委員会活動や係活動は、責任をもって取り組む子が多いです。
- ・ やってもないのに、最初からあきらめる姿も見られます。チャレンジすることで、自分を成長させることができます。失敗から学ぶこともたくさんあります。失敗を恐れずに、様々なことに積極的に挑戦してほしいと思います。「できる・できないじゃない。やるかやらないかだ！」

(保健面)

- ・ 「はちつぽねぶ」がなかなかそろいません。ご家庭でも声かけをお願いします。

さすが最上級生！1年生のお世話や低学年のお手本になることなど、どんなことができるかを自分たち自身で考えながら取り組めるようになってきています。個性あふれる学級ですが、子供たちは少しずつ確実に成長しています。そして、欠席が少ないということが本当に嬉しいです。それは家庭の支えや家族の受容・応援があつてのことです。1学期間のご協力ありがとうございました。まだまだ自分中心で動く子供たちが多いですが、優しい心もたくさんもっている子供たちばかりなので、今後もその心を多く引き出せるように励ましていきたいと思っています。これからもよろしくお願いします。